

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 03-206014

(43)Date of publication of application : 09.09.1991

(51)Int.Cl. A61K 7/00
A61K 35/78

(21)Application number : 02-000343 (71)Applicant : OOGAMI MAKIKO

(22)Date of filing : 04.01.1990 (72)Inventor : OOGAMI MAKIKO

(54) MELON EXTRACT-FORMULATED COSMETIC LIQUID AND HAND CREAM AND THEIR PRODUCTION

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain the title cosmetic liquid and hand cream etc., in such a way that a melon extract produced using a juicer is incorporated with borax into a solution, which is mixed with a second solution prepared by dissolving butyl p-hydroxybenzoate in ethanol, and glycerin is added to the resulting mixture.

CONSTITUTION: [1] (A) melon extract produced using a juicer, (B) borax, (C) ethanol, (D) glycerin and (E) butyl p-hydroxybenzoate are fully agitated into dissolution, and the mixture is then filtered. 4-6 weight times of purified water (based on the component A) is added to the resulting filtrate to obtain the objective cosmetic liquid. [2] Borax is dissolved in a melon extract into a solution, which is then mixed with a second solution prepared by dissolving butyl p-hydroxybenzoate in ethanol. The resultant solution is filtered, and the filtrate is mixed with a hydrophilic ointment followed by, finally, addition of glycerin and then sufficient agitation and mixing, thus obtaining the other objective hand cream. These cosmetics have excellent moisture retaining property and elasticity due to synergic effect of glycerin and the melon extract.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A) 平3-206014

⑬ Int.Cl.⁵

A 61 K 7/00
35/78

識別記号

府内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)9月9日

ADA K
S

9051-4C
8412-4C

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全3頁)

⑮ 発明の名称 メロンエキスを配合した化粧液並びにハンドクリーム及びその製造法

⑯ 特願 平2-343

⑰ 出願 平2(1990)1月4日

⑱ 発明者 大上 真樹子 広島県豊田郡川尻町原山470-2

⑲ 出願人 大上 真樹子 広島県豊田郡川尻町原山470-2

明細書

1 発明の名称

メロンエキスを配合した化粧液並びにハンドクリーム及びその製造法。

の成分のはほとんどは表示されていない。

(発明が解決しようとする課題)

しかし、消費者は、メーカー品というだけでその原価わずか10数円のものを何千円、何万円という高値で購入し使用しているのである。

本発明は、こうした課題を補うため、極力、添加物を最小限に止めめた良質の、しかも美肌効果の優れた化粧液を製造しようとしたものである。

(課題を解決するための手段)

本発明に使用するメロンであるが、メロンに含まれる成分は100g中、たん白質0.9g、脂質0.2g、糖質6.4g、纖維0.9g、カルシウム10mg、ナトリウム20mg、リン22mg、鉄0.3mg、ビタミンA効力200IU、カロチン600IU、ビタミンB₁0.03mg、ビタミンB₂0.02mg、ビタミンC15mgである。『昭和41年発行厚生省・食品分析表』より。

このメロンエキスの成分の中に、皮膚の角質

2 特許請求の範囲

① 果実のメロンエキスが配合されていることを特徴とした化粧液。

の成分のはほとんどは表示されていない。

② 果実のメロンエキスが配合されていることを特徴としたハンドクリーム。

(発明が解決しようとする課題)

3 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、果実のメロンエキスを配合した化粧液及びハンドクリームに関するものである。

の成分のはほとんどは表示されていない。

(従来の技術)

従来から化粧品の多くは、その原価に比べて非常に高価で、しかもその成分といふのは、人工着香料等多量の添加物が含有されている。近來、「危ない化粧品」という本が出版されたり、自然化粧品が売り出されて久しいが、そういう物の中にも添加物は多種多様に含まれ、そ

を柔軟にし、肌をうるおうとした特質のあることは、昔の女性がスイカやメロンを使ってパックしていたのをヒントに、本発明者が発見したことである。これまでメロンは、食品分野においては利用されたことはあっても、他の分野においてはまだ実用化されたことはなかった。

しかし、その効果が医学的に証明されるかどうかは、今後の問題に属すべきことで、本願の主旨とするところではない。

現在、市販されているアロエエキスの成分についても、その成分中の何が肌に効果があるのかということは、未だ解明されてはいないということである。

(作用)

本発明は、メロンエキスが配合されていることを特徴とする化粧品に関するものである。

メロンエキスを配合する化粧品としては、化粧水の他に、洗顔料、乳液、パック剤、コールドクリーム、マッサージクリーム、クレンジングクリーム、栄養下地クリーム、リップクリー

ム等が挙げられる。

本発明に使用するメロンであるが、無論新鮮なメロンにこしたことはないが、プリンスメロン、マスクメロン等種類は選ばず、高級なものでなくてもよい。

メロンエキスの配合量は、全大量を100%とした場合、その10~15%程度が最も適当と思われる。しかしこれは、季節、個人の肌の状態によって若干の差があるが、メロンエキスが30~40%を超えると、ツバカリ感が増すようである。このメロンエキスを配合する方法としては、冷却も加熱も不要で大体どのような方法でもよい。また、アルカリ剤として用いるホウ砂は、グリセリンには溶けるがエタノールには不溶であるので、まずメロンエキスに溶解させることが必要である。尚、グリセリンは全大量の10%までに、エタノールは5~10%以下に押さえる。また、P-ヒドロキシ安息香酸ブチルを添加しない場合は、冷蔵庫に保管すれば1ヶ月は保てる。防腐剤は、この他に安息

香酸、安息香酸ナトリウム、サリチル酸ナトリウム、ソルビン酸、バラオキシ安息香酸エステル類が使用される。

(実施例)

以下に製造、実施、実験例にもとづいて、本発明を詳細に説明する。

(製造例)

①メロンエキス配合化粧液

(材料)	グリセリン	10%
	エタノール	20%
	ホウ砂	0.5%
P-ヒドロキシ安息		
香酸ブチル	0.1%	
精 製 水	60%	
メロンエキス	10%	

配合方法はまず、ジューサーで抽出した新鮮なメロンエキスにホウ砂を加え、充分にかき混ぜ溶解し、P-ヒドロキシ安息香酸ブチルをエタノールで溶解したものと混合し、次ぎにグリセリンを加えて充分にかき混ぜ溶かせた後、ろ

紙でろ過する。メロンエキスと精製水の対比は、メロンエキス1に対し、精製水4~6倍位が適当かと思われる。しかし、この対比は先に示したように、個人差によって微妙な違いがある。ただ、ホウ砂はグリセリンには溶けるが、エタノールには不溶であるので、まずメロンエキスに溶解させることが必要である。

②メロンエキス配合ハンドクリーム

(材料)	グリセリン	10%
	エタノール	10%
	ホウ砂	0.5%
P-ヒドロキシ安息		
香酸ブチル	0.1%	
精 製 水	50%	
メロンエキス	10%	

配合方法はまず、新鮮なメロンエキスにホウ砂を溶解し、P-ヒドロキシ安息香酸ブチルをエタノールで溶解した後ろ紙でろ過し、これを精製水に混ぜさせ、最後にグリセリンを加え充分にかき混ぜる。ガラス容器等に密閉する

親水軟こうは乳剤性基剤で、これには2つの型があり、1つは水中油型(O/W)と、もう1つは油中水型(W/O)である。

親水軟こうは前者で、他に代表的なものとして親水ワセリン、精製ラノリン等がある。後者には吸水軟こう、加水ラノリン、コールドクリーム、ローズ水軟こう、ローズ水ワセリン軟こう等がある。

乳剤性基剤は水分を含有するので、皮膚に塗布した際、他の水溶性基剤、油脂性基剤に比べて配合医薬品をよく皮膚より吸収させ、また冷却作用を示し、かゆみ止め、消炎的にはたらき、特にそれは親水軟こうに著しいと文献にある。以上の組成物で製造したメロンエキス配合ハンドクリームに、天然の香料等加えるとなお良い。尚、クリーム基剤として、親水軟こうの他に水溶性基材、マクロゴール類、ヴェリダーム基剤(O/W型乳剤性基材)と、その種類は問わない。

また、ここに挙げた化粧品類のみでなく、メ

ロンエキスの利用範囲は、台所用洗剤、入浴剤、石けん類に至るまで広域に及ぶものである。

また、盛り完璧な化粧品に仕上げるなら、紫外線防止剤等加えるとよい。

(実験)

以下は、数年間悩んだかかとの角化症が、たった3日で完治した実例と、顔のシミにどのような影響があったか、実際の模様を事実にもとづいて記述したものである。

(症例) 40歳・女性

足裏全体が、分厚い角質で薄い鐵板を張りつけたように黒ずみ、冬になるとそこがヒビ割れ血がにじみ、常に2-3枚のバンソーコーを張り、ビックコを引きながら歩く。この状態が6年続いた。実験は、メロン化粧液をカット綿にしませ、洗顔後と入浴後の1日2回、かかと・顔の両面に塗布したものである。

1日目…足裏全体にしつとりとなじみ、全体が柔らかくなる。顔も同様。

2日目…柔らかくなった角質を、つめでボロボロ

こそげ落とした後、再び同様に塗布する。足裏全体が柔らかくなり、きれいなピンク色になる。

3日目…ヒビ割れの所を除いて、全体が生まれたばかりのような柔肌になる。顔にはツヤとハリが出る。

10日目…ヒビ割れがきれいに解消する。足裏全体がツヤツヤと輝き、すっかり元の状態にもどる。

3ヶ月…角化症はあとかたもなく解消。

肌のシミ、90%解消。毛穴の汚れも薄くなり、小ジワも目立たなくなる。

これを、数人の知人に試用してもらった結果、予想以上の好評を得た。

感想は次ぎに上げるところである。

- ① 使用感がさっぱりとして、とてもさわやかであること。
- ② 外出しない時は、これ1つで過ごせる事。
- ③ 化粧のノリが良くなつた。
- ④ 肌が非常に柔らかく、すべすべになつた。

(発明の効果)

本発明は、メロンエキスそのものに皮膚をよみがえらせる成分が含有されている上に、グリセリンとの相乗効果が優れた保湿性と彈力性をもたらすので、そういった成分であるコラーゲン、ヒアルロン酸、スクワレン、また完全にはその成分が解明されていないといわれる胎盤エキスなどの余分な成分を加える必要がなく、その分、最もナチュラルに近い形の、成分表示のできる化粧液が作られることである。